

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		昭和62年度		根拠法令・規程等	備前市飲料水供給施設設置条例	
事業開始年度						
総合計画	大項目	基本目標	01			安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01	生活しやすいまちづくり		
	小項目	施策	09	上水道及び簡易水道		
事務事業名		04	飲料水供給施設管理運営事業			
		問	担当課(室)	水道課		
		合	職・氏名	工務係長 尾野田瑞穂		
		先	電話	0869-66-9793		

事業の実施		
対象(誰・何に対して)	飲料水供給施設(鴻島)の水道使用者	
目的(何のために)	飲料水供給施設の維持管理により、常に安全・安心な水道水を安定的に供給する。	
行政活動(どのような方法で)	漏水調査・施設点検等による維持管理や通報等による漏水確認及び漏水箇所の早急な修繕の実施を行なう。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	無効水量の低減(有収率の向上)	

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	送水量	m ³	36,040	29,126	26,470
	有収水量	m ³	11,143	10,678	10,728
	有収率	%	30.9%	36.7%	40.5%
	給水人口	人	51	52	55
実績	直接事業費	千円	9,600	12,396	8,161
	必要人員	人	0.78人	0.23人	0.68人
	必要人員人件費	千円	6,010	1,897	6,135
	事業費	千円	15,610	14,293	14,296
	事業費計	千円	15,610	14,293	14,296
財源	国・県支出金	千円			
	受益者負担金	千円	8,145	8,002	8,159
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他()	千円			
一般財源	千円	7,465	6,291	6,137	
受益者負担比率	%	52.2%	56.0%	57.1%	

結果指標名		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	有収水量	説明	料金徴収の対象となった水量		
	結果指標量	m ³	11,143	10,678	10,728
	対前年対比	%	-	95.8%	100.5%
	活動コスト	円	15,610,000	14,293,000	14,296,000
結果指標②	給水人口	説明	給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口		
	結果指標量	人	51	52	55
	対前年対比	%	-	102.0%	105.8%
	活動コスト	円	15,610,000	14,293,000	14,296,000
単位当たりコスト	円	306,078	274,865	259,927	

事業の成果					
有収率	成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	到達目標値	目標値(A)	35	39	43
	到達目標値	実績値(B)	30.9	36.7	40.5
	到達目標値	達成率(B/A)	88.3%	94.1%	94.2%
成果指標設定の考え方・式や説明					
有収率を上げることにより、無効水量を低減、常時水道水を安定的に供給する。 有収水量/送水量					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価			
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> A 判定理由・課題認識 本地区は、離島で人口分布が希薄であるが、島民の日常生活に直結し、欠くことのできないもので、施設の維持管理は必要である。
		市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 水質、給水量を確保しながらコスト削減に努めているが、施設の老朽等による修繕に経費が必要となる。
		目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E> D 判定理由・課題認識 有収率は、施設の老朽により、無効水量が多いため低くなっている。今後は、計画的な施設の更新・改良等の整備が必要である。

平成21年度の状況		目標値	結果指標量①	10,700	結果指標量②	55	成果指標量	47
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了	
	○							
説明		有収率は少し向上しているが、まだ低いため、計画的な施設の更新・改良が必要である。						

総合評価		
水道は、市民の日常生活に直結し、欠くことのできないもので、安全な飲料水の供給を継続していくためには必要な事業である。	評価区分<A~E>	B

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
○							
説明		有収率を向上させていく必要がある。					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
	効率性	無効水量が多いので、施設の現状を把握し、漏水等の早期発見、対応等効率的な維持管理をする。	平成21年度	効率的な維持管理のコスト削減			